

議 事 録

「周産期の医療システムと情報管理に関する研究」

分担研究「周産期センターの適正な配置 と内容の基準に関する研究」班

I. 第1回班会議

日 時：平成8年6月3日（月）

12時～16時30分

場 所：スクワール麹町4階 末広の間

東京都千代田区麹町6-6

TEL：3234-8739

出席者：

主任研究者 多田 裕

分担研究者 中村 肇，後藤 彰子

研究協力者

服部 司，佐藤 郁夫，近藤 裕一，

小泉 武宣，千葉 力，平井 滋，

金子 政時 山崎 武美 末原 則幸，

布施 養善

事務局 白井 恵子

議 題：

1. 本年度の研究の打ち合わせ
2. 討論事項
 - (1) 周産期医療協議会の構成について
 - (2) 総合周産期母子医療センターの認定基準について
 - (3) 地域周産期母子医療センターについて
 - (4) その他

II. 第2回班会議

日 時：平成8年9月9日（月）

12時～17時

場 所：アルカディア市ヶ谷4F 鳳凰の間

東京都千代田区九段北4-2-25

TEL：3261-9921

出席者：

主任研究者 多田 裕

分担研究者 中村 肇，後藤 彰子

研究協力者

服部 司，佐藤 郁夫，近藤 裕一，

小泉 武宣，千葉 力，池ノ上 克，

鮫島 浩，平井 滋，金子 政時，

山崎 武美，末原 則幸，布施 養善，

厚生 省 前田 光哉

病院管理研究所 長屋 憲

顧問 小川雄之亮，仁志田博司

事務局 白井 恵子

議 題：

- 1) 各地の周産期医療センターの整備状況について
- 2) 地域周産期母子医療センターのあり方に関する検討
- 3) 次回研究班での検討課題について

Ⅲ. 第3回班会議

日 時：平成8年10月14日（月）

13時15分～15時30分

場 所：きゅりあん6F 小会議室

東京都品川区東大井5-18-1

TEL：5479-4100

出席者：

主任研究者 多田 裕

研究協力者

服部 司, 近藤 裕一, 小泉 武宣,

千葉 力, 池ノ上 克, 平井 滋,

金子 政時, 山崎 武美, 末原 則幸,

布施 養善

病院管理研究所 長屋 憲

事務局 白井 恵子

議 題：

- 1) 母体搬送の定義と現状
- 2) 母体・胎児集中治療管理室準備について
- 3) 今後の研究班の検討課題について

Ⅳ. 合同班会議

日 時：平成8年10月14日（月）

15時30分～17時

場 所：きゅりあん6F 中会議室

東京都品川区東大井5-18-1

TEL：5479-4100

議 題：

- 1) 母体搬送の定義と現状

出席者：

主任研究者 多田 裕

分担研究者 中村 肇, 後藤 彰子

研究協力者

服部 司, 近藤 裕一, 小泉 武宣,

千葉 力, 池ノ上 克, 平井 滋,

金子 政時, 山崎 武美, 末原 則幸,

布施 養善, 北島 博之, 加部 一彦,

沢田 健, 原 量宏, 猪谷 泰史,

永山 善久, 大石 昌典, 李 容桂,

楠田 聡, 宍田 紀夫, 細野 茂春,

大野 勉, 側島 久典, 吉永洋一郎,

竹内 山水, 梶原 真人, 三科 潤,

上谷 良行, 芳本 誠司

病院管理研究所 長屋 憲

事務局 白井 恵子

Ⅴ. 班会議打合せ

日 時：平成9年1月6日（月）

14時～17時

場 所：スクワール麹町4階 末広の間

東京都千代田区麹町6-6

TEL：3234-8739

出席者：

主任研究者 多田 裕

研究協力者

服部 司, 佐藤 郁夫, 小泉 武宣,

千葉 力, 平井 滋, 山崎 武美,

末原 則幸, 布施 養善

事務局 白井 恵子

議 題：

- 1) 各地の周産期医療整備の実態の分析
- 2) 周産期医療施設の全国集計結果の分析
- 3) 報告書原案の検討

VI. 第4回班会議

日 時：平成9年2月3日（月）

10時～14時30分

場 所：スクワール麹町4階 末広の間

東京都千代田区麹町6-6

TEL：3234-8739

出席者：

主任研究者 多田 裕

研究協力者

服部 司, 佐藤 郁夫, 小泉 武宣,
千葉 力, 平井 滋, 山崎 武美,
末原 則幸, 布施 養善, 清水 也,
丸山 憲一, 近藤 裕一, 池ノ上 克,
金子 政時, 上原 靖子

厚生省 前田 光哉

事務局 白井 恵子

議 題：

- 1) 各地の周産期医療システムの整備状況の検討
- 2) 周産期医療整備に関するQ&Aの検討
- 3) 事務連絡

VII. 全体班会議（フォーラム：全国NICU 調査結果報告（石塚祐吾博士）と討論）

日 時：平成9年2月3日（月）

14時30分～17時

場 所：スクワール麹町3階 錦の間

東京都千代田区麹町6-6

TEL：3234-8739

出席者：

主任研究者 多田 裕

分担研究者 中村 肇, 後藤 彰子

研究協力者

服部 司, 近藤 裕一, 小泉 武宣,
千葉 力, 池ノ上 克, 平井 滋,
金子 政時, 上原 靖子, 山崎 武美,
末原 則幸, 北島 博之, 加部 一彦,
沢田 健, 原 量宏, 猪谷 泰史,
永山 善久, 大石 昌典, 李 容桂,
楠田 聡, 穴田 紀夫, 細野 茂春,
大野 勉, 側島 久典, 竹内 山水,
梶原 真人, 三科 潤, 上谷 良行,
芳本 誠司, 橋本 武夫, 吉永陽一郎,
丸山 憲一, 小田 良彦, 藤村 正哲,
永田 雅子, 中尾 秀人, 田村 正徳,
上石 晶子, 西田 朗, 小川雄之亮,
石塚 祐吾

厚生省 北井 暁子, 前田 光哉

事務局 白井 恵子

分担研究「ハイリスク児出生の実態把握と追跡管理に関する研究班」

I. 第1回分担研究班会議議事録

日時：平成8年5月15日（水）

14:30～17:30

会場：メルパルク大阪

出席者：

中村 肇, 大野 勉 (細野 茂春),
吉永陽一郎 (橋本 代理), 永山 善久・
大石 昌典 (小田代理), 李 容桂,
三科 潤, 側島 久典 (永田 幸代),
竹内 山水 (梶原 代理), 楠田 聡,
中尾 秀人 (溝渕 雅巳),
事務局 (上谷 良行, 芳本 誠司),
多田 裕 (主任研究者),
後藤 彰子 (分担研究者),
田村 正徳 (事務局より出席依頼)

- ・中村分担研究班長より引き続き今年度も班研究にご協力いただきたい旨挨拶があった。
- ・多田主任研究者より、平成9年度の母子保健法の実施を睨んで実際的な提言が必要であることが述べられた。
- ・後藤分担研究班長より、後藤班の今年度の方針について説明があった。

- 1) 極低出生体重児退院サマリーデータベースの各施設毎の入力最終版を提出いただき、今後その集計とデータの活用について討論する予定である。
- 2) 90年出生超低出生体重児の子後調査の中間集計について事務局より報告があった。
- 3) 情報発信源としての地域センター病院の役割について討論された。

- ・新生児医療連絡会で実施された、会員施設における未熟児の親の会の実態についての調査結果について、田村先生より報告があった。
- ・平成6年度に中村班で実施した超低出生体重児の養育に関するアンケート調査の集計結果について、永山班員より説明があり、家族のもつ子育ての不安や医療・保健サイドへの不満があることが明らかにされた。今後より具体的に問題点を浮き彫りにするために、親のニーズ、意見を求める詳細なアンケート調査を実施すればよい。
- ・各班員施設における退院後の保健所との情報の授受について報告があった。

4) 今後の予定

- ・各班員で母親への保健婦の訪問に対する意見についてのアンケートの内容について、また医師サイドのフォローの問題に関する調査について検討する。
- ・次回の班会議は、7月25日（木）開催の予定。

事務局 上谷 良行
(神戸大学医学部小児科)

II. 第2回分担研究班会議議事録

日時：平成8年7月25日（水）

12:00～17:00

会場：メルパルク大阪

出席者：

中村 肇, 大野 勉 (細野 茂春),
吉永陽一郎 (橋本代理), 小田 良彦
(永山 善久), 李 容桂, 三科 潤,
側島 久典, 梶原 真人, 楠田 聡,

中尾 秀人,
事務局 (上谷 良行, 芳本 誠司),
多田 裕 (主任研究者),
後藤 彰子 (分担研究者)

- ・多田主任研究者より未熟児が退院したときの保健所連絡用紙のモデルを作成したとの報告があった。
 - ・保健所連絡用紙の記載に際して情報提供料が算定できるか否かを調査する。
1. 極低出生体重児の退院サマリーデータベースについて。
- ・母体搬送の定義など記入に関する方法をマニュアル化する必要がある。
 - ・情報提供用紙に使用できるフォームにしたい。また、最低限の必要項目にして、それ以上の項目は各施設でオリジナルに追加する。
 - ・本年度の入院患者について試験的に使用してみる。
2. 90年出生超低出生体重児の予後調査について。
- ・班員の担当施設への督促により回収率が56%から79%にアップした。
3. 極低出生体重児の子育てに関する調査について。
- ・大野班員より、保健婦の指導が画一的なために訪問しても個人に有益でないこと、さらに訪問を実施する保健婦にもアンケート調査すべきであることが指摘された。
 - ・多田主任研究者よりフォローアップをどこで実施するのか、保健所がどこまでかわるのか等を是非この班で提言して欲しいとの要望があった。

4. 医療情報の集積と管理について討論された。
- ・医療情報の伝達には承諾が必要であることが再度確認された。
 - ・ハイリスク児個々のデータを持つ総合周産期母子医療センターの情報センターとマスとしての情報を持つ保健所とをいかにリンクするかが問題である。
5. 今後の予定
- ・各個研究として、各地域における情報管理の在り方と問題点についてまとめていただきたい。
 - ・次回は多田班全体で合同班会議を実施する予定である。

(10月14日、13:15より大井町「きゅりあん」
中会議室にて)

事務局 上谷 良行
(神戸大学医学部小児科)

Ⅲ. 第3回合同研究班会議議事録

日時：平成8年10月14日(月)

13:15~17:00

会場：きゅりあん

出席者：

中村 肇、大野 勉(細野 茂春),
吉永陽一郎(橋本代理), 永山 善久・
大石 昌典(小田代理), 李 容桂,
三科 潤, 側島 久典, 梶原 真人
(竹内 山水), 楠田 聡(宍田 紀夫),
事務局(上谷 良行, 芳本 誠司),
多田 裕(主任研究者),
後藤 彰子(分担研究者)

- ・本年度より用いられる予定の保健所連絡用の

未熟児出生連絡票が提示された。

・保健所連絡用紙の記載に際して情報提供料が算定できるが、同じ自治体内では算定できないので、実際算定しているのは2施設のみであった。

・連絡票の送付元は主治医と看護婦の連名にしたい。

1. ハイリスク新生児入院基本情報について

・未熟児出生連絡票に記入する項目を加えて、未熟児出産連絡票として出力できるように改訂した入力フォームと記入要領について検討した。

・班で作成した産科情報項目について産科周産期関係者に検討を依頼する。

2. 90年出生超低出生体重児の予後調査について。

・回収率は64%であるので、最終期限までに班員より督促をお願いしたい。

・知能発達正常が57%、境界25%で、3歳時に比して正常率が低い傾向である。

3. 極低出生体重児の子育てに関する調査について。

・保健婦に対するアンケート調査については事務局で、母親に対するアンケート調査は大野班員に担当していただくので、回収した用紙はそれぞれに送付のこと。

4. 95年度極低出生体重児の退院サマリーデータベースについて。

・このデータベースを用いた新生児死亡に及ぼす因子解析結果が報告された。

・側島班員より慢性肺疾患の型別頻度についての検討では、小川班での検討結果とほぼ一致

していたとの報告があり、是非このデータベースを活用していただきたい。

5. 後藤班との合同班会議

・妊産婦情報の光カードシステムについて説明があり、新生児情報の入力項目について今後検討する事とした。

・疾病コード入力について、現状と問題点について報告があった。

6. 全体班会議

・母体搬送の定義について討論された。

7. 今後の予定

・次回の多田班合同班会議は2月3日実施する予定である。

事務局 上谷 良行

(神戸大学医学部小児科)

Ⅳ. 第4回研究班会議議事録

日時：平成9年1月20日(月)

13:00~17:00

会場：神戸市産業振興センター

出席者：

中村 肇、大野 勉(細野 茂春)、

橋本 武夫(吉永陽一郎)、永山 善久・

大石 昌典(小田代理)、李 容桂、

三科 潤、側島久典(永田雅子)、

竹内 山水(梶原代理)、楠田 聡、

中尾 秀人(溝渕雅巳)、

事務局(上谷 良行、芳本 誠司)、

多田 裕(主任研究者)、

後藤 彰子(分担研究者)

1. 多田主任研究者より新生児医療の最近の動向について説明があった。

2. ハイリスク新生児入院基本情報の集計について

- ・1995年度に登録した各施設の極低出生体重児のデータベースの解析結果を小児科学会において報告する予定である。

3. 超低出生体重児6歳時予後の調査集計結果について報告があった。

- ・昨年12月31日までの段階で59.9%の回収率であった。
- ・3歳時知能発達正常170例のうち6歳時では精神遅滞が19例、境界が44例あり、3歳時での知能発達評価の困難さ及び継続医療の重要性が明らかとなった。
- ・今後、体重別の異常頻度、軽度運動障害や視力障害（弱視）の定義などについて検討すべきであり、日常生活への支障の程度を考慮して異常の定義を定めるべきであるとの意見があった。

4. 極低出生体重児の訪問指導に関する調査について

1) 保健婦用

- ・病院から保健所への情報が質的量的に十分でないことが最も大きな問題である。

2) 保護者用

- ・退院後は入院中の主治医は地理的に遠く、かかりつけ医や保健婦に相談事をしたいと思っているものの、その人たちの知識が十分でないために相談できない実状が明らかになった。従って地域に根づいたバックアップシステムの構築が重要である。

5. 各個研究：各地域における病院・保健所などの情報伝達の現状と問題点

6. 今後の検討課題

- ・養育医療に対する提言：ハイリスク新生児に対しても適応するように明記すべきか？
- ・母子への支障システムのコーディネートをとどのように行うか？

7. 事務連絡

- ・会計報告は事務局より至急書類を送付するの
で、2月中に提出していただきたい。
- ・次回班会議は2月3日10時よりスクワール麴町にて開催予定。

事務局 上谷 良行
(神戸大学医学部小児科)

V. 第5回研究会議議事録

日時：平成9年2月3日（月）

10:00~17:00

会場：スクワール麴町「羽衣の間」

出席者：

中村 肇, 大野 勉, 橋本 武夫
(吉永陽一郎), 小田 良彦 (永山 善久
・大石 昌典), 李 容桂, 三科 潤,
側島 久典 (永田 雅子), 梶原 真人
(竹内 山水), 楠田 聡 (宍田 紀夫),
中尾 秀人,
事務局 (上谷 良行, 芳本 誠司)

1. 平成8年度の研究成果について班長より総括があった。

1) ハイリスク新生児入院基本情報の入力マニュアル冊子を作成したので、今後超低出生体重児の6歳時予後調査に協力いただいた施設に配布して広く普及させたい。

また、希望する施設にはディスクを送付す

る予定である。

2) 超低出生体重児6歳時予後調査の中間集計結果を報告した。

3) 超低出生体重児の子育てに関するアンケート調査のまとめが大野班員よりあった。

・長期的な不安に対して保健婦は答える事はできないのではないか。

・保健婦に医療サイドは何を求めるのか、親サイドは何を求めるのかを整理する必要がある。

・病院での健診と訪問の使い分けを親に指導する必要がある→訪問指導の位置づけ

・訪問後の情報を病院へフィードバックするシステムがあればよい。

・保健婦に対する研修を含めた教育が重要である。(医療機関のフォローアップにoverlapする)

・保健所の保健婦の数では足りないのでは？
厚生省乳幼児発達相談指導事業とのリンクも考えては？

4) 大分における新生児医療情報の管理と活用について梶原班員より報告があった。

2. 次年度にむけて検討課題について討論があった。

1) 保健所に何を期待するかを明確にする。

2) 産科から小児科への紹介用紙の作成する。
母体情報の光カード化を視野にいたした検討が必要である。

3) 95年度出生の超低出生体重児の3歳時予後について全国調査を実施する必要がある。
今回の6歳時の予後調査結果より、3歳時の発達評価法についてさらに検討すべきである。

3. 事務連絡

1) 会計報告は2月中(できるだけ早期に)お願いしたい。

2) 研究報告書は昨年度と同様の形式でまとめていただき、ディスクも送付して欲しい。
完成したもの1部は必ず送付してください。

事務局 上谷 良行

(神戸大学医学部小児科)

分担研究「周産期疾患の登録疾患名に関する研究」

(分担研究者：後藤 彰子)

I. 分担研究班会議議事録

1. 日 時：平成8年7月29日(月)

13:00~16:00

会 場：横浜東急ホテル

出席者：

多田 裕(主任研究者),

上谷 良行(分担研究者 中村 肇),

後藤 彰子(分担研究者),

原 量宏, 北島 博之, 猪谷 泰史,

沢田 健, 加部 一彦(研究協力者)

・昨年度分担研究の評価と本年度の研究継続について

・中村班の退院サマリーデータベース母体合併症、産科的合併症については、大阪(北島班員)、東京(加部班員)のハイリスク児の産科情報を検討し、九州の共通産科依頼票なども参考にしながら、最終的に神保班員のチェックを受け完成したものにする。

・平成7年度本研究班で作成したICD10データベースを用いて、大阪(北島班員)、東京

(加部班員)での過去5年間の新生児の疾病を分類する。

- ・ 沢田班員はウィンドウ95対応のデータベースを作成する。
- ・ 神奈川、東京、千葉、埼玉など行政をこえた空床状況が共有できないか検討する(沢田班員)
- ・ 患者情報としてのデータベースの利用状況について、全国新生児施設にアンケートを送付する。(猪谷班員)
- ・ 7年度作成したICD10データベースのピリオドを削除する。(猪谷班員)
- ・ 作成した疾病コードを全国規模に広めるには、小児科学会新生児委員会、用語委員会(産科と合同)などで引き続き検討していくことが必要(多田主任研究者)。
- ・ 疾病名や情報の登録は、バーモンド・オックスフォードのシステム(800NICUが登録している)のように、国立成育センターなどに登録する事はできないだろうか?
- ・ 母子手帳に代わる光カードを日母で検討している。
次回このカードに盛り込まれる予定の新生児情報をもってきてもらう。(原班員)

2. 日 時：平成8年10月14日(月)

13:15~17:00

(中村班と合同分担研究班)

会 場：きゅりあん(東京)

出席者：

後藤 彰子(分担研究者),
猪谷 泰史, 加部 一彦, 北島 博之,

沢田 健, 原 量宏(研究協力者)

1) 後藤 班

- ・ 本年度分担研究課題の進行状況について
- ・ 東京都母子保健センターに登録されている新生児疾病名の解析(1988~1995、36066名)(加部研究協力者)
 - ・ 当研究班のBPAコードとの不一致
 - ・ 病名登録上位150疾患については当研究班の昨年度報告と一致
 - ・ コード不明の問題
 - ・ 分類疾患の統一
- ・ 大阪府立母子保健総合医療センターに登録されている疾病コード(ICD10又はICD9(BPA)の解析(1981.10~1996.6;4378名)(北島研究協力者)
 - ・ 24週以下から35週以上まで週数毎に5段階に分けて、週数毎の頻度をみる。
 - ・ 15年間の一施設における疾患の変遷がわかる。
 - ・ 一人当たりの疾患コード数(疾患名は8まで)が分かる。
 - ・ 疾病名の精度、時代による疾病の流れがわかる。
- ・ 各都道府県新生児施設へ新生児患者情報データベース使用状況のアンケート(112/154, 73%の回収率)(猪谷研究協力者)
 - ・ 73%が入院患者管理にコンピュータを使用している。
 - ・ 共通データベースがあれば利用したい44%。
 - ・ 利用しているパソコンは、マック70%、WINDOWS10%であった。

- ・病名コード入力は、59%がICD10を利用していた。
- ・病名入力数は、47%が15以下であった。
- ・WINDOW95でのデータベースはUSERで分担してアクセスを考える。(沢田研究協力者)
- ・周産期管理光カードシステムについて(原研究協力者)
 - ・日本母性保護産婦人科医会情報処理検討委員会により日母光カード標準データフォーマットづくりが進められている。新生児に関する項目の検討をこの班会議で検討するのが適当と思われる。
- ・その他
 - この秋にICD10の索引が出版される。BPA10の刊行、ファイルメーカーのバージョンアップについて。

2) 中村班との合同会議

- ・ハイリスク新生児の入院基本情報の中で産科情報、母体合併症について問題点を再度検討した。
- ・今回の検討を最後に、ハイリスク新生児基本情報と後藤班で作成した疾病名のコードのデータベースとを実際に各新生児施設に配布し、使用してもらう。

3) 全体会議

母体搬送の定義について討論した。

緊急と非緊急に分けて記載するが、基本的には広義に母体搬送を解釈する包括的な意味合いの強いものが望ましい。

3. 日 時：平成9年2月3日(月)

10:00~17:00

(分担研究班会議と全体班会議)

会 場：スクワール(東京)

出席者：

後藤 彰子(分担研究者),

猪谷 泰史, 加部 一彦, 北島 博之,

沢田 健, 原 量宏(研究協力者)